



大学アメフト 母校を9年ぶりの 日本一に導く！

アメフトとの出会い

子どもの頃から運動神経には自信があり、いつか何かの競技で頂点に立ちたいと思っていました。ある時、地元の高校がアメフトで全国2位になったことを知り、「これや！」と思いその門を叩きました。

大学はアメフトの名門立命館大学に進学し、3回生の時に大学日本一を決める「甲子園ボウル」と社会人との頂上決戦「ライスボウル」で優勝しました。そして、4回生の時には主将としてチームを率い、両大会を2年連続で制しました。

社会人チームから声を掛けていたのですが、口の世界で闘うことは難しいと考え、大学卒業後は民間企業に総合職で就職しました。

監督就任

プロの道は諦めましたが、就職後も高校や社会人チームのコーチなど、仕事と両立しながらアメフトに関わり続けました。それでも、立命館大学から監督就任の話が来た時は正直とても戸惑いました。監督をするということは転職するということであり、社会人として築いたキャリアを一度捨てる事になるからです。ただ、私を人として成長させてくれた母校のアメフト部が8年もの間、日本一から遠ざかり悔しい思いをしている姿を見ていましたので、「恩返しをするなら今しかない」と思い決意しました。

就任してまず初めに取り組んだのは、選手たちの自己肯定感を高めることでした。あいさつに始まり、練習中のハイタッチや声掛けまで、日々のコミュニケーション

パワースポット新宮

母が教員だったので、夏休みなどの長期休みを母の実家がある新宮で過ごすことが高橋家の習わしでした。野山を駆け回ったり馬立川をプライベートビーチのように使ったりしたこと、頑丈な体になりました（笑）。だから、自分の体の半分以上は新宮でできていると思っています。監督として初めて迎えた夏も新宮に帰

「屈強な体格の選手がぶつかり合う」。アメフトにそういうイメージを持つ人が多いと思います。でも実際は、体格や役割の違う選手がそれぞれ活躍でき、また試合中は、何度でも自由に選手交代ができます。つまり、誰にでも活躍のチャンスがある、「究極の多様性」こそがアメフトの魅力です。一方で戦術は奥深く、ゲームメイクの難しさも魅力の一つです。機会があればぜひ試合を見に来てください。きっとハマりますよ。

アメフトの魅力

「屈強な体格の選手がぶつかり合う」。アメフトにそういうイメージを持つ人が多いと思います。でも実際は、体格や役割の違う選手がそれぞれ活躍でき、また試合中は、何度でも自由に選手交代ができます。つまり、誰にでも活躍のチャンスがある、「究極の多様性」こそがアメフトの魅力です。一方で戦術は奥深く、ゲームメイクの難しさも魅力の一つです。機会があればぜひ試合を見に来てください。きっとハマりますよ。



立命館大学 アメリカンフットボール部 パンサーズ 監督 高橋健太郎さん(44)

Kentarō Takahashi

1981年 大阪府茨木市生まれ
大阪・関西大倉高校→立命館大学
母が新宮町馬立出身。幼少期から長期休暇は新宮町で過ごす。
高校からアメフトを始め、大学ではディフェンスバックとして活躍。4回生の時には主将としてチームを率い、2年連続で日本一に輝く。
卒業後は、関西電力で働きながら高校や名門パナソニックでコーチを務め、指導者としての実績を築く。2024年1月に立命館大学アメリカンフットボール部「パンサーズ」の監督に就任。初年度にチームを日本一へ導く。



新宮で撮影した家族写真。後列中央が高橋監督（2000年1月撮影）



甲子園ボウル優勝を果たし胴上げで宙を舞う高橋監督（2024年12月撮影）

撮影場所 立命館大学 BKC グリーンフィールド（滋賀県草津市）